GUIDE 4

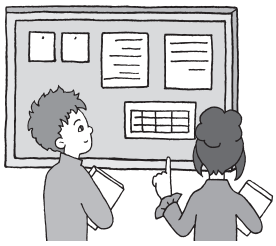
学修の手引き

01 教育課程の学位授与方針と学修到達目標との関係

教育課程の学位授与方針	学修到達目標																							
	汎用的能力												専門的能力											
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力		
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)
地（食健康生）	②	②	②③	①③	①③	①③	①②	①③	①③	①②	①②	①②	①②	①③	②③	①②	③	①③	①②	①③	②③	①②	①③	②③
地（介護福祉生）	②	②	②③	①③	①③	①③	①②	①③	①③	①②	①②	①②	①②	②③	②③	①②	②③	③	①②	②③	②③	①②	②③	②③
地（多文化生）	②	②	②③	①③	①③	①③	①②	①③	①③	①②	①②	①②	①②	②③	②③	①②	②③	②③	①②	②③	②③	①②	①③	①③
幼保	③	③	③	①②	①②	①②	①②	①②	①②	④	④	④	②③④	①②	④	①②	①②	①②	①②	①②	①②	③	②③	②③④

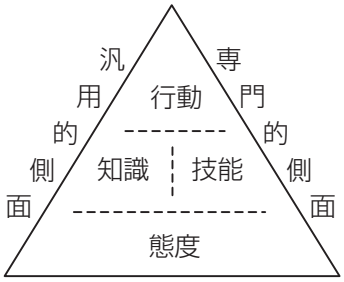
☆この表は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）と学位到達目標の関係を示しています。
各番号の内容は、食健康コース（P7）、介護福祉コース（P8）、多文化コース（P9）、幼児保育学科（P10）のディプロマポリシーを参照してください。





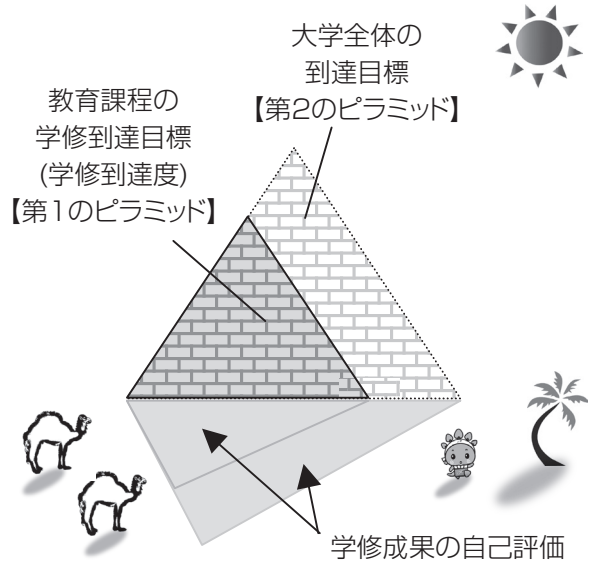

02 学修成果の獲得に向けて

卒業までの修学期間中、学生の皆さんは、学位授与方針を満たすために必要な学修成果の獲得に向け修学に励むことになります。学修成果は、社会人になるために必要な実質的な能力としてコンピテンシー・ピラミッドで表現されます。コンピテンシーは、社会で活躍する人が特徴的に持つ行動や考え方を示す能力評価の総体を意味するもので、ピラミッド形で表わされます。



この能力の総体は、大きく【態度】【知識】【技能】【行動】の要素に大別されますが、能力要素それぞれが独立して力を発揮するものではありません。例えば、ある行動に態度が伴っていなければ信用を得ることは難しいでしょうし、知識や技能が伴っていないと軽薄なものとなるでしょう。また、知識や技能を身に付けたとしても、行動や態度が伴っていなければ、総じて能力は低いと評価されるでしょう。あるいは態度だけ示せても、それ以外の能力が示されなければ評価は低いと言えるでしょう。

所属する教育課程の正課教育および課外活動のなかで、皆さんはこのピラミッドを自ら創るために必要な材料や方法を学んでいると言えます。学修到達目標は、コンピテンシー・ピラミッドの目標となっており、大学/短大の学科共通の汎用的能力要素、学科固有の専門的能力要素で構成されます。各学期の履修科目の成績評価から、学修到達目標に対する学修到達度を確認することができます。学修成果の獲得では、「何を学んだか」ではなく、「学んだ結果、何ができるようになったか」が重視されます。そこで、学修到達目標において、何がどの程度できるようになったかを自己評価する（学修成果の自己評価）ことで、学修到達度の実態を明確にしなければなりません。学修成果の自己評価は、獲得したピラミッドの実態を明らかにする影と言えます。影は適切な大きさである必要があります。



教育課程の学修到達目標に基づいた学修到達度と学修成果の自己評価は、第1のピラミッドと言えます。大学全体で定める到達目標は、修学期間全体を通して獲得する能力の総体であり、第1のピラミッドを含む第2のピラミッドと言えます。

第2のピラミッドは、修学期間の個人の諸活動による能力の獲得も含まれるため、教育課程から得る学修到達度のような実態は示されませんので、学修成果の自己評価をすることで、学修成果の獲得を明らかにするものです。

03 学修の流れ《履修登録から学修の振返りまで》

毎学期に、次の順で学修を繰り返し進めていきます。

① 履修登録→② 受講→③ 授業評価→④ 成績評価→⑤ 成績発表→⑥(追再試験)→⑦ 学修の振返り

1 履修登録

履修登録により科目の受講意思を表明します。学期の授業開始前のガイダンスにおいて、登録用時間割表が配布されます。基本的には学年別に配当されている科目から履修する科目を選択します。

履修科目のシラバス(授業計画)は必ず確認し、必要に応じて印刷物やデータを保管してください。履修登録の方法は、「学生ポータルサイトの利用について」に記載しています。

シラバスのサイト:http://er.nisikyu-u.ac.jp/abu0300
※本学ホームページから確認できます。

② 受講

「受講の基本事項」に記載しています。

③ 学生による授業評価

授業期間中盤に記述式の授業評価の調査が任意で実施されます。終盤には「お知らせ」がありますので、履修する全ての科目について授業評価を行ってください。授業評価は、授業の改善や学生指導の情報として利用されますので必ず行ってください。成績評価には一切関係しません。授業評価の方法は、「学生ポータルサイトの利用について」に記載しています。

④ 成績評価

「成績評価について」に記載しています。

⑤ 成績発表

学期末に個人成績一覧表が発表(個人配布)されます。成績評価は、S（90点以上）A（80点以上）B（70点以上80点未満）C（70点未満60点以上）不可（60点未満）失格（受講回数が満たない場合）で示されます。成績発表以降、学修到達度を学生ポータルサイトから各自で確認できます。学修到達度は、個人成績から算出された学期総合の達成率が能力要素別に集計されたものです。

⑥ 追再試験

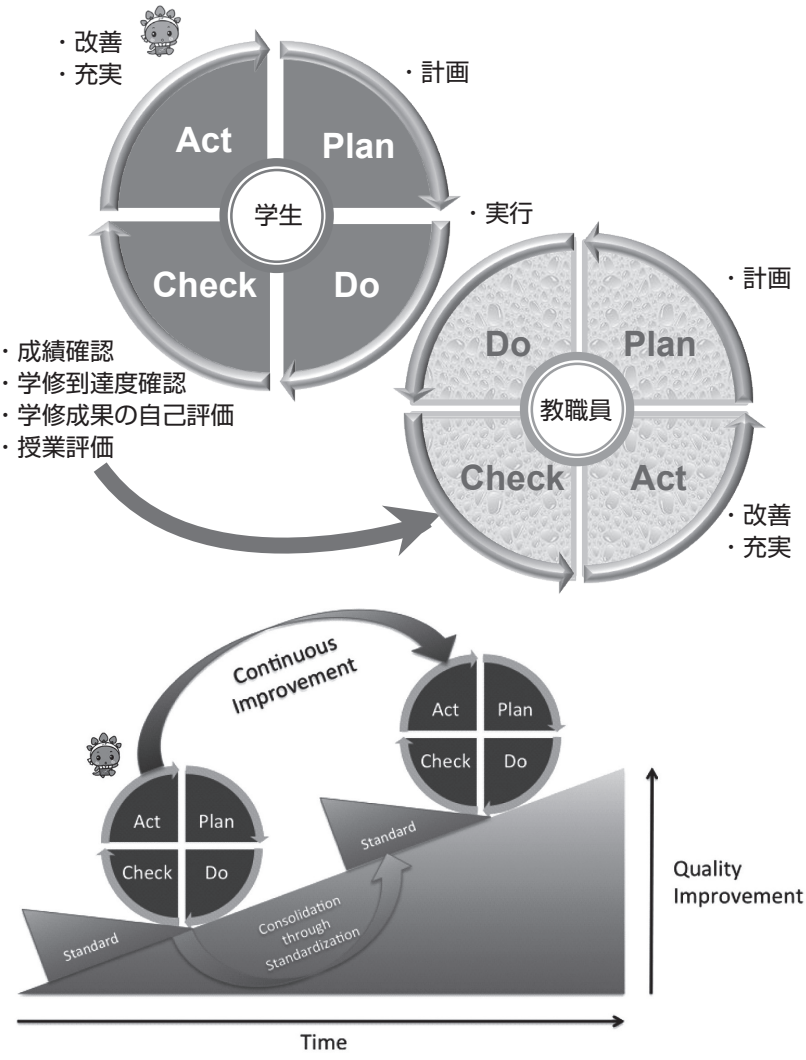
追試験は、病欠その他の正当な理由があって試験当日に欠席した場合に実施されるものです。再試験は、成績不可（60点未満）の対象者に実施されます。受講回数が2/3に満たない場合は失格となり、追再試験の対象外です。追再試験の対象者は教務課で手続きを行うことで試験に臨めます。科目によって再試験がない場合があります。

※実習･実習指導･実験や演習科目等、最終試験などによって評価できない科目は、基本的に追再試験はありません。

⑦ 学修の振返り

各自の成績評価に基づいた学期毎の学修到達度を確認することができます。これと併せて学修成果の自己評価を行います。成績及び学修到達度の確認と、授業評価と学修成果の自己評価を行うなかで、各自の学修を振り返り、学期サイクルでPDCA(Plan･Do･Check･Act)を行ってください。

最終学期末の、学修成果の自己評価は、その査定結果と併せて、学修成果証明書（学位を補足する資料）に記載されます。また、成績ほか、学修到達度、学修成果の自己評価や授業評価は、個別指導や支援、授業やカリキュラム改善などの資料として活用されます。授業評価と学修成果の自己評価は、個人の成績に影響するものではありません。授業評価と学修成果の自己評価の方法は、「学生ポータルサイトの利用について」に記載しています。学修活動の一環として必ず行って下さい。



04 学生ポータルサイトの利用について

学生ポータルサイトは、各自の修学を管理·支援するツールとして活用されるもので、入学から卒業するまでの修学期間に渡って使用します。学外パソコンからでもアクセスが可能です。事前にID·パスワード（PW）が配布されます。学内パソコンを使用する際は、別途学内パソコンにアクセスするID·PWが必要です（事前に配布されます）。いずれのID·PW情報は、卒業まで使用しますので、記録し失くさないように大切に管理してください。学生ポータルサイトのホーム画面·ログイン画面（図1）を参考にしてください。

学生自らが修学の状況を振り返るためのツール、ポートフォリオの活用により、修学·生活の自己管理と分析、自己評価の文章化による自己表現、目標と行動の設定（PDCAサイクルの定着）、教科担当との双方向のコミュニケーションなどが可能となり、迅速な学習支援を提供しています。主な機能は次のとおりです。本誌では、学修を進めていくために不可欠な事項5～9について説明します。

1 ホーム画面のお知らせ（図1－1、図1－2） P88参照

休講·補講や教室変更、その他の連絡事項が掲載されますので、各自で事前に確認してください。また、学内の掲示板にもお知らせしますので、登校時には確認が必要です。

2 ポートフォリオ概要（授業でも活用されます。）

【修学支援ポートフォリオ】 修学ポートフォリオには、修学日誌·学期毎の記録があります。修学日誌は、週報日誌となっており、1週間毎に自己管理を行うものです。学期毎の記録では、各学期に目標設定·活動成果·今後の課題等を記録して振返り自己管理を行うものです。

【キャリアポートフォリオ】 自分史（学期毎の記録を含む）·就職準備等の記録をして自ら就職活動の準備をするために使用するものです。

【学修ポートフォリオ】 課題レポートの提出や、レポートを介した教科担当との個別指導等に使用するものです。

3 ボランティア活動概要（授業でも活用されます。）

ボランティア募集一覧から参加希望の申込みをします。

4 求人情報·説明会情報

就職説明会や求人情報を閲覧することができます。

5 シラバス情報（図2－1、図2－2） P89参照

本年に開講される科目のシラバスが掲載されます。シラバス情報の確認（図2－1、図2－2）を参考にしてください。

6 履修科目、希望する資格免許の履修登録及び時間割の印刷（図3－1、図3－2、図3－3） P91参照

学期はじめに（ガイダンス等において）履修する科目について、各自で登録申請します。履修登録用の時間割表が配付されます。登録用時間割表は、各教育課程表に記される科目の学年配当に基づいて作成されています。卒業要件や資格要件をしっかり確認し、履修登録を行ってください。登録期間中は上書き変更が可能です。最後に保存した科目が登録されます。

履修登録の画面操作（図3－1、図3－2、図3－3）を参考にしてください。

7 成績の閲覧（図4） P93参照

個人成績一覧を随時閲覧することができます。各学期の成績発表日に当該学期の成績が更新されます。

8 授業評価の登録（図5） P94参照

履修する全ての科目について、授業を評価してもらいます。この調査では、各自の受講について振返るほか、授業や指導を改善するための情報として活用されます。成績評価には関係しませんので、受講者の義務と心得て必ず回答してください。授業評価は、およそ14回または15回目の授業最後に実施されます。実施の際にはポータルサイトにお知らせがあります。

授業評価の登録画面操作（図5）を参考にしてください。

⑨ 学修到達度の確認（図6） P95参照

各学期で履修した科目の成績評価に基づいて能力要素別の学修到達度が集計表示されます。
学修到達度の確認（図6）を参考にしてください。

⑩ 学修成果の自己評価の登録（図7） P96参照

各学期末に、自分の能力要素がどの程度達成しているかを自己評価します。学修成果の自己評価方法（図7）を参考にしてください。

⑪ 学位の補足資料（ディプロマ・サプリメント）について

学修成果を卒業時に提示するため、学位証明書補足資料（ディプロマ・サプリメント）を発行します。

⑫ アンケート調査

学修実態調査、就職活動関係調査、学生生活実態調査、授業での調査など、各種調査が適宜実施されます。調査のお知らせの際に回答してください。

※学生ポータルサイトでの入力（登録）作業について

登録は、それぞれ期間が設定されます。期間外には登録できません。登録期間を確認し、期日を守るよう注意してください。

入力作業中は、何もしていないと、30分でタイムアウトとなり、途中の入力情報は保存されません。入力作業時は、こまめに登録ボタン（または、下書きボタン）を押して保存するようにしてください。（授業評価シートの登録については、回答途中で保存ができません。）

※スマートフォン等での操作も可能ですが、動作保証はしておりません。データが記録されない場合もありますので必ずwindows PCにて操作を行ってください。

（図１－１）
ログイン画面

https://asunaro.nisikyu-u.ac.jp/portal/　（大学ホームページからアクセスします。）



※　各自のユーザー ID、パスワード、生年月日を入力し、ログインします。
※　パスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた方は」を選択し、指示に従ってください。

（図１－２）
ホーム画面



（図２－１）

シラバス情報の確認

本学ホームページあるいは学生ポータルサイトからシラバス検索画面に入ります。シラバスは本年度に開講される科目の学科別一覧が表示されます。

画面は2017年度開講例です。



（図２－２）
シラバス画面



※科目ナンバリングは、科目系統図と合わせて科目の位置づけが確認できます。詳細は「学生便覧」（大学）「キャンパスライフハンドブック」（短大）ほか、ガイダンス等で説明があります。

授業の概要 及びねらい	現代の子どもの問題に向き合い、子どもの心と体の成長や発達を支援するには、教育学や保育学の領域にとらわれず、学際的視点から子どもにアプローチしていく必要がある。本講義はオムニバス方式で、子どもを生物的・社会的存在としてとらえ、環境、人類学、子育ての歴史、社会と文化、身体、生活支援等の観点から解説する。
授業の 到達目標	①子どもをとりまく環境について科学的側面から理解し、考えることができる。 ②人類学的視点から、人間の子どもの生物学及び文化的な特徴について説明できる。 ③子育ての営みを歴史的文脈の中で、客観的に理解することができる。 ④乳幼児死亡率の高かった過去の時代において、子どもがどう取り扱われてきたかに関心を持つ。 また、そのことについて説明することができる。 ⑤現代の学校や家族の制度につながる、子ども期の概念の歴史的生成を知る。 ⑥身体から見た子どもの特徴や育ち、また発達障害について理解する。 ⑦子どもの生活の中での権利と育ち、また子育て支援の現状と施策および課題について述べることができる。
学習方法	オムニバス形式での講義、プリント配布、ビデオ等視聴、担当教員ごとに課題提出を求める
テキスト及び参考書籍	テキスト：西九州大学子ども学研究会編「子ども学のすすめ」佐賀新聞社 参考書：波平恵美子「生きる力をさがす旅―子ども世界の文化人類学」出窓社　他

※能力要素別に該当する学修比率が記されています。

【心理カウンセリング学科】

到達目標	汎用的能力要素												専門的能力要素												合計
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率														20		10		30		10		20	10		100
評価基準・方法																									評価割合%
定期試験																									
小テスト等														○		◎				○			○		
宿題・授業外レポート														○		◎				○			○		
授業態度														○											
受講者の発表																									
授業の参加度														○											
その他														○		○				○			○		100
	各論ごとに小テストや課題レポート等で評価される。																								
合計																									100

(表中の記号　○評価する観点　◎評価の際に重視する観点　%評価割合)

※該当する評価方法が記されています。

授業計画（学習内容・キーワードのスケジュール）

第１週	事前学習(予習)	シラバスを読んでおく。
	授業	授業計画の説明、子どもと環境①　子どもと自然・生活環境【田中・平田】
	事後学習(復習)	子どもを取り巻く環境についてまとめる。次週のプリント配布
第２週	事前学習(予習)	「生体としての子ども」について、配布プリントより内容を確認する。
	授業	子どもと環境②　生体としての子ども　　子どもと環境①②まとめの小テスト【平田】
	事後学習(復習)	子どもと環境①②について、まとめテストより振り返る。
第３週	事前学習(予習)	「自然環境の変容と子どもの自然体験」について、配布プリントより内容を確認する。
	授業	子どもと環境③　自然環境の変容と子どもの自然体験【飯盛】
第１４週	授業	子どもの生活経験と子育て支援①　子どもの権利と子どもの育ち【田中】
	事後学習(復習)	子どもの権利と子どもの育ちについて、まとめる。
第１５週	事前学習(予習)	「家族・地域社会の現状、子育てに関する施策」について、配布プリントより内容を確認する。
	授業	子どもの生活経験と子育て支援②　家族・地域社会の現状、子育てに関する施策【田中】
	事後学習(復習)	子どもの生活経験と子育て支援について、レポートを作成する。

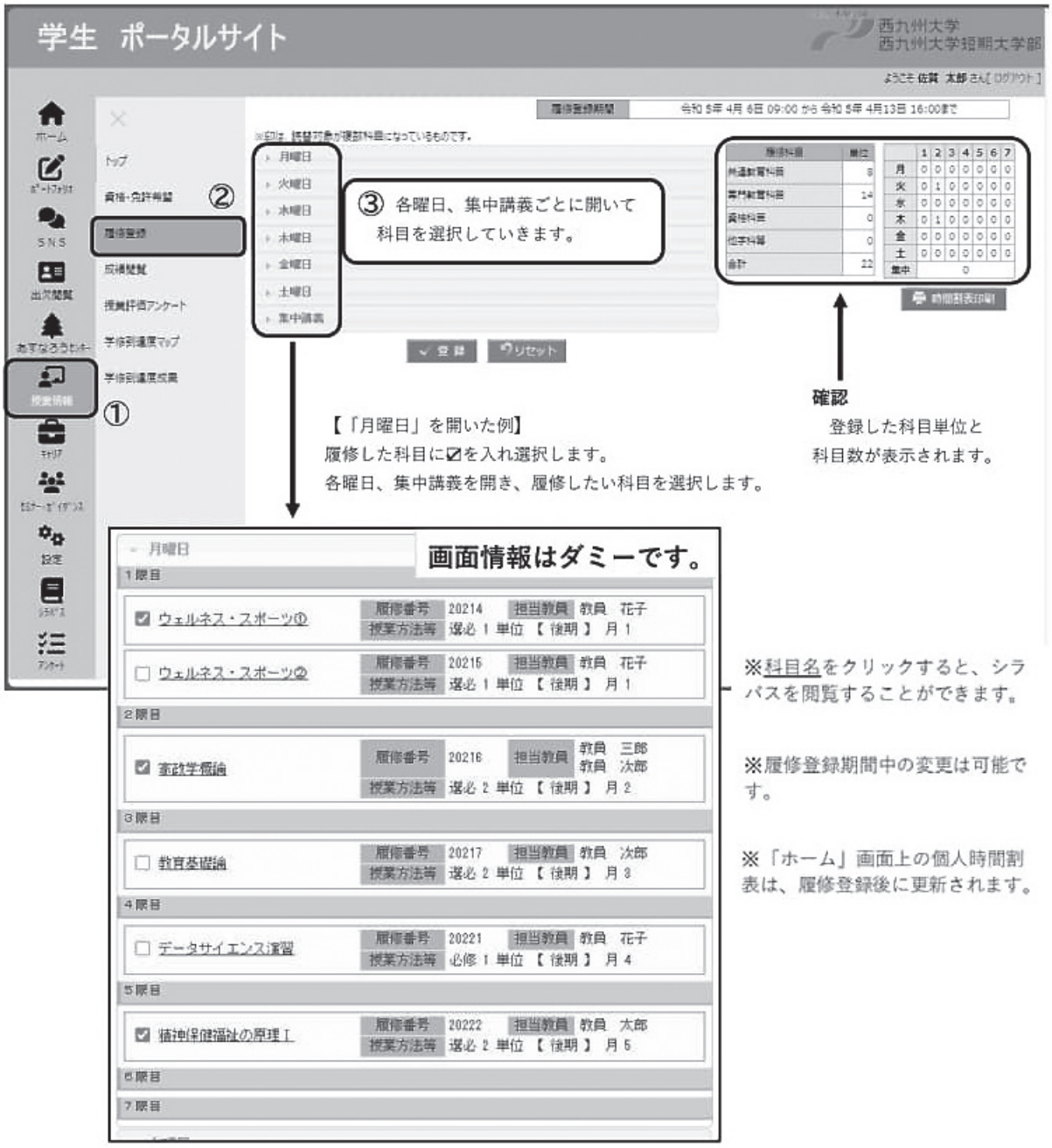
※事前に確認し、必要な予習･復習をします。

※受講に必要な事項等が記載されています。

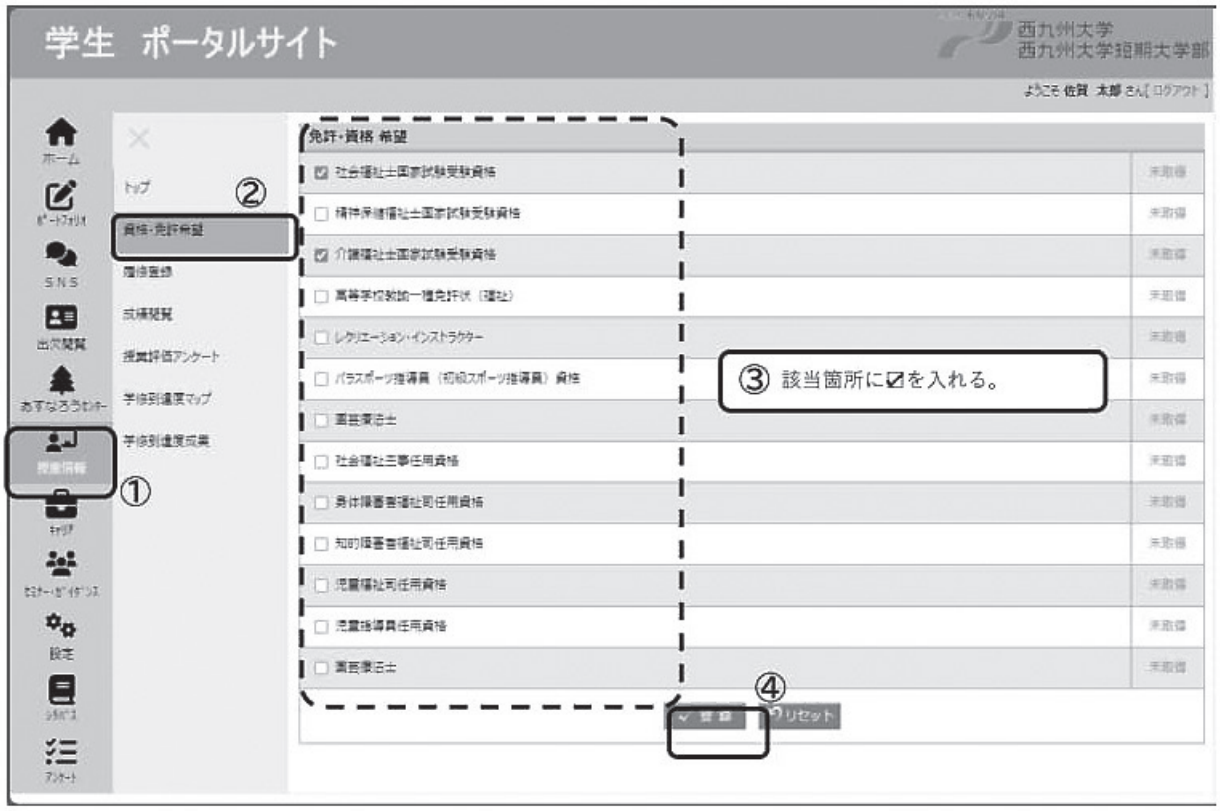
備考	

（図３－１）
履修登録の画面操作

【はじめに】学生ポータルサイトでの履修登録作業の前に時間割をもとに、あらかじめ下書きの時間割表を作成しておきます。下書きした時間割表を見ながら登録操作を行ってください。



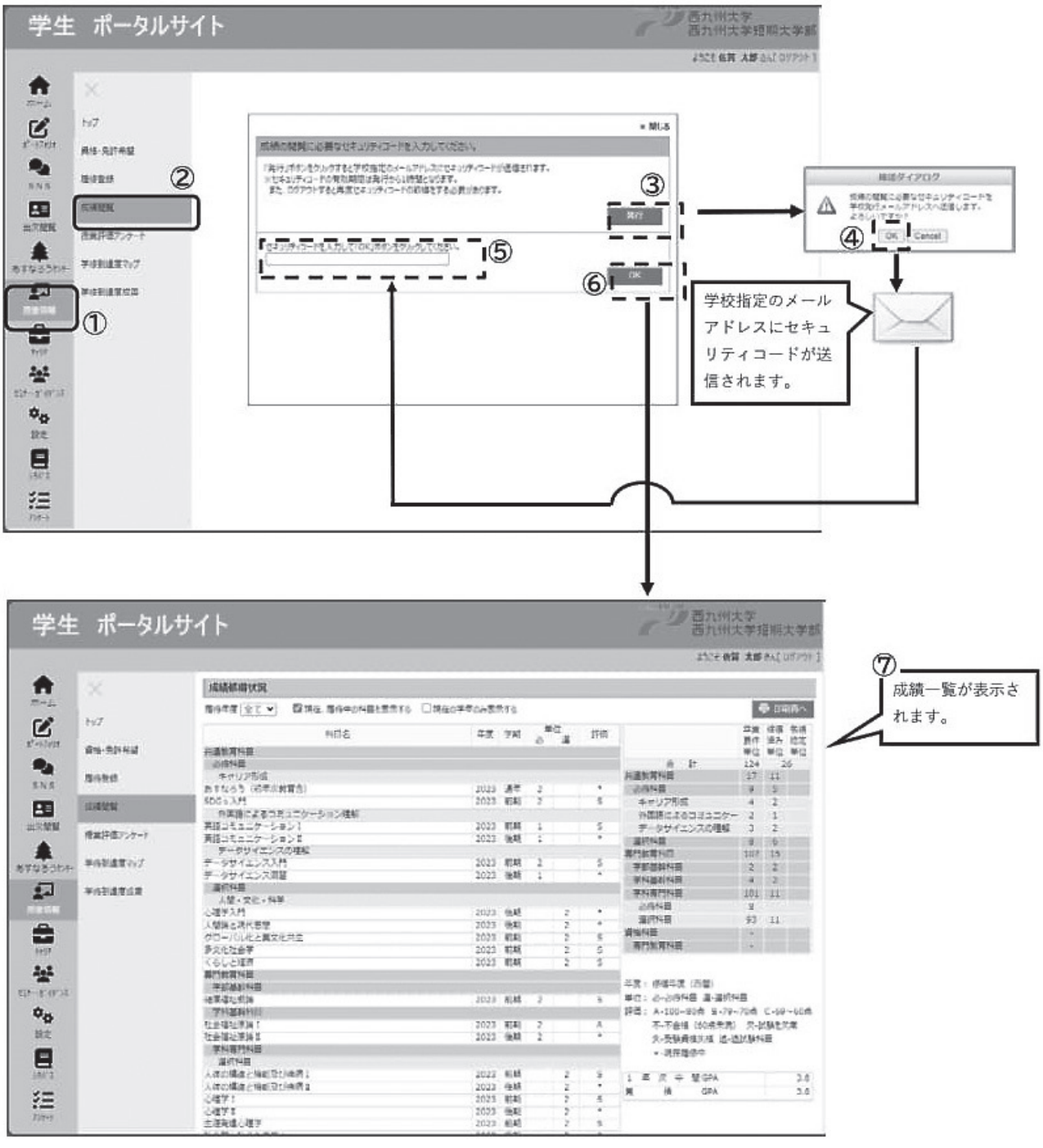
（図３－２）
資格・免許希望の登録



（図３－３）
登録した時間割表の印刷確認
※履修登録後に印刷してください。



（図４）
成績閲覧方法



◆注意◆

＜セキュリティコードを入力し、成績の閲覧が可能な状態から別のメニューを表示した場合＞

再度、成績閲覧のメニューをクリックすると、

1）1時間以内での操作であれば →
セキュリティコードの入力画面が既に入力された状態で表示されますので、そのまま「OK」ボタンをクリックすると成績閲覧が可能です。

2）1時間を越えた場合 →
セキュリティコードの入力画面が表示されますが、1）の場合と異なりセキュリティコード欄は空白で表示されます。また、既に取得していたセキュリティコードは期限切れとなり、再取得しないと成績閲覧をすることができません。

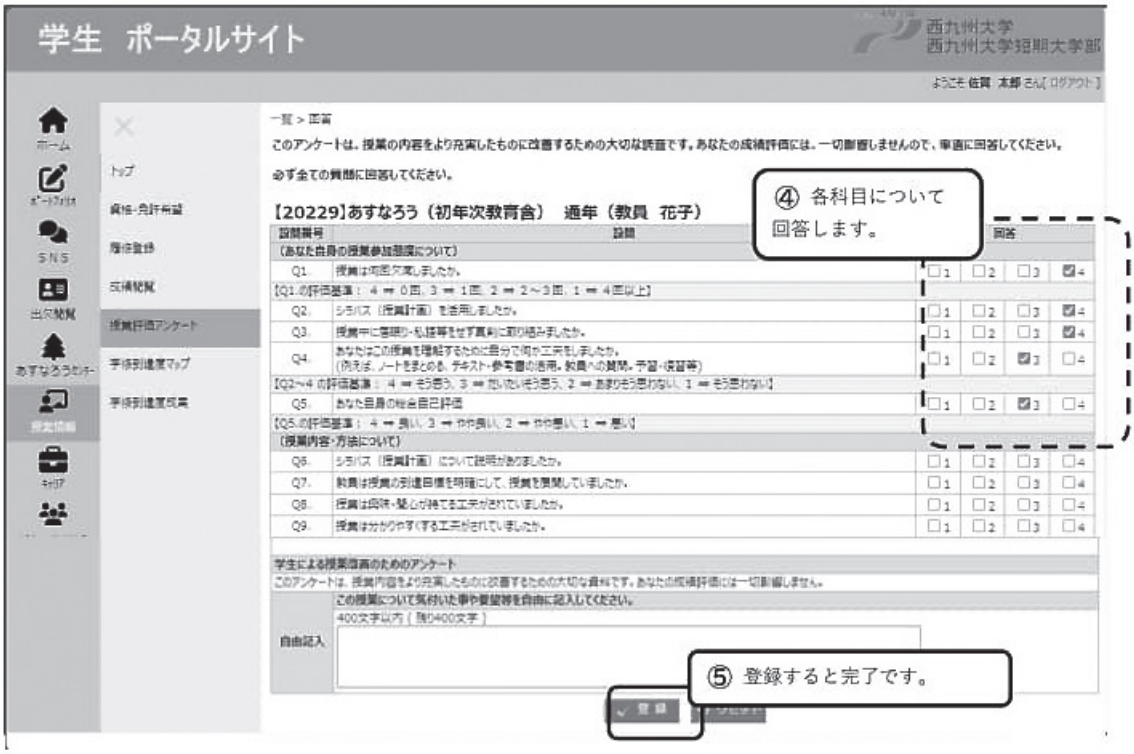
＜途中でログアウトした場合（「×」でウィンドウを閉じた場合を含む）＞

既に取得していたセキュリティコードは期限切れとなり、再取得しないと成績閲覧をすることができません。

（図５）
授業評価の登録画面操作



授業評価シート

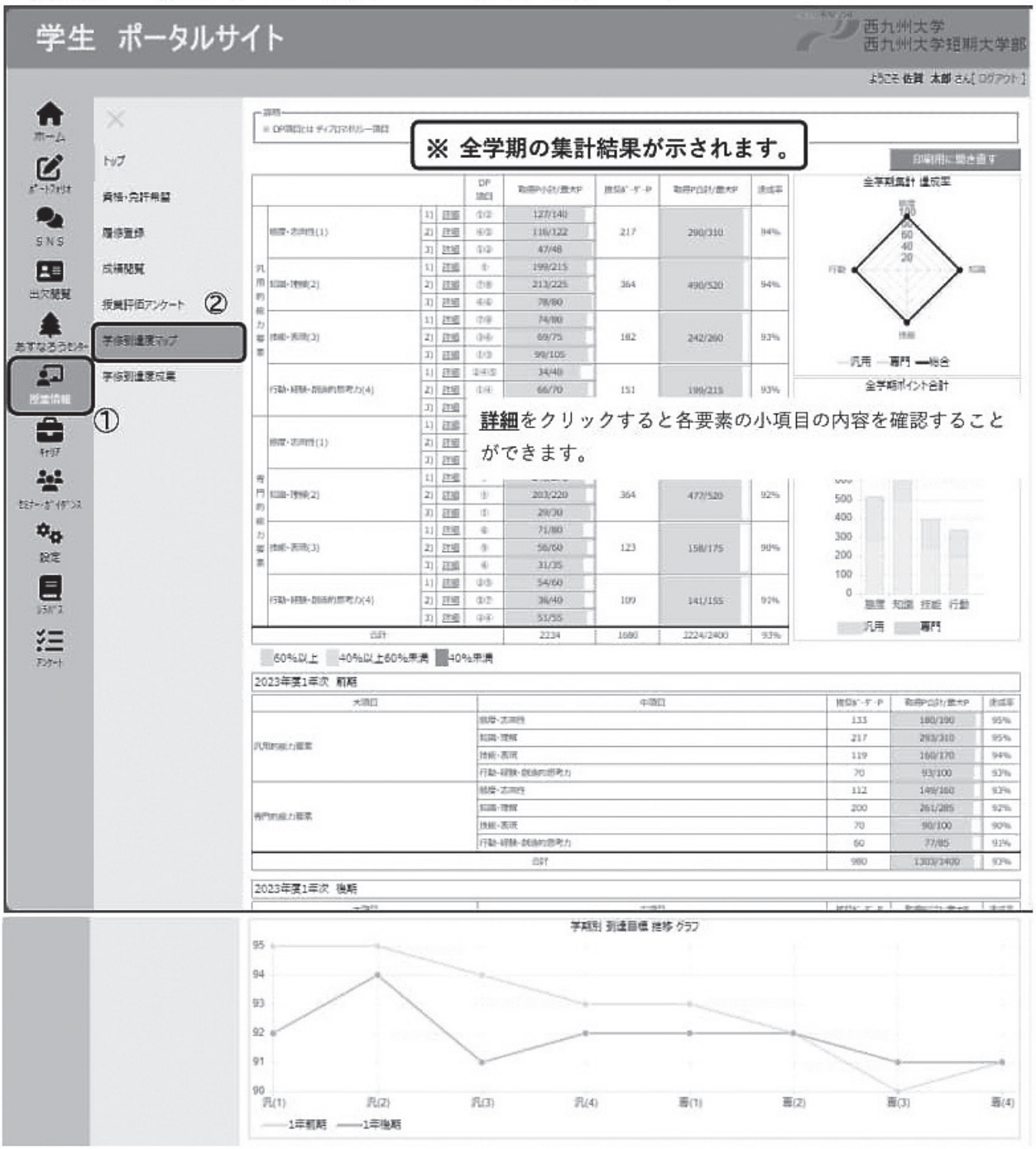


授業評価シートの質問1～18は共通です。該当番号のチェックと自由記入をしてください。
授業評価シートは、途中保存ができませんので、最後（質問18）までもれなく回答してください。
質問19～25は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。履修科目全てに回答してください。
回答期間中であれば変更は可能です。

（図６）

学修到達度の確認

各学期末の成績発表時に個人成績に基づいて到達度が集計されます。

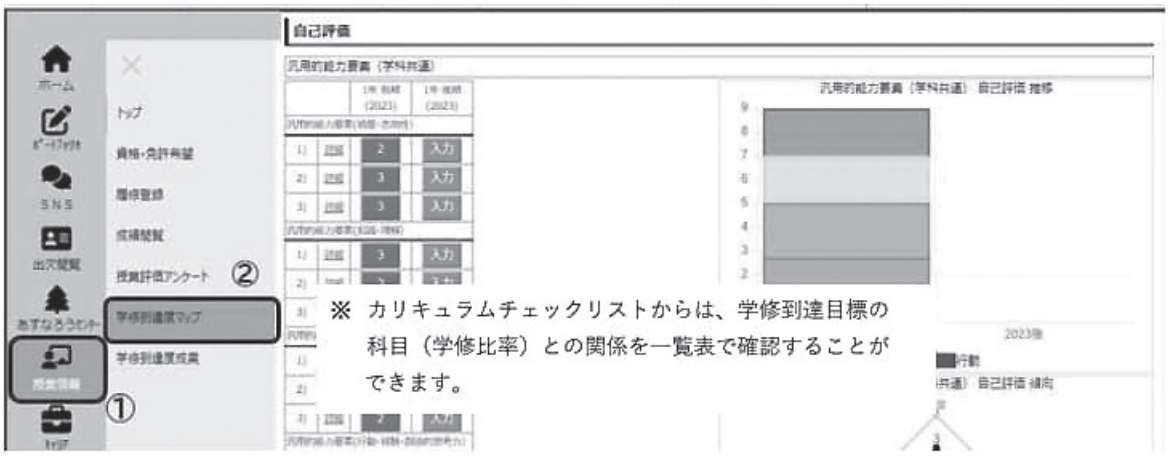


各学期の到達度が高い要素は自分の強みとして、低い要素は弱い点として、次学期の学修に向け強化、充足を図ってください。

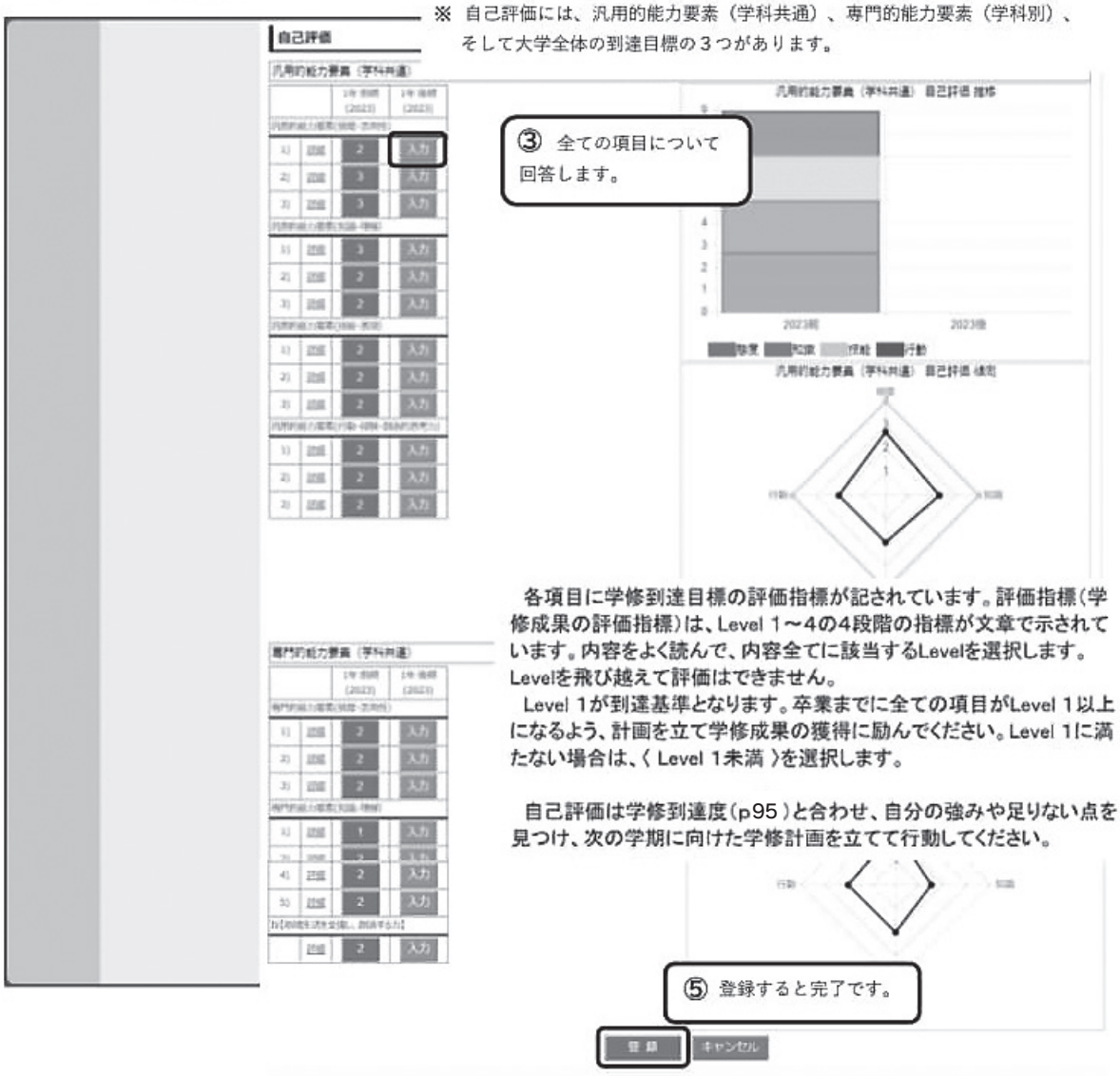
（図７）

学修成果の自己評価方法

学期終了ごとに学修成果の自己評価を行い、修学を振り返り、次学期の学修充実を図っていきます。自己評価は、学修到達目標の評価指標をもとに自己評価を行います。学修成果の評価指標は、入学時にプリント配布するほか、大学ホームページ（情報公表）にも掲載しています。
（https://www.nisikyu-u.ac.jp/nagahara/info/）



↓ **学修到達画面の下**



05 受講の基本事項

基本事項

1. 教育活動は、授業·セミナー·課外活動等がありますが、すべては、建学の精神、教育の理念をはじめ、教育課程の3つの方針と学修到達目標に基づいて、教育·指導が実施されます。
2. 課外活動は、正課教育に含まれる重要な教育活動に位置付けられます。
3. 教育活動では、教員が「何を教えたか」ではなく、自らが「何を学んだか」「どのような学修成果を獲得したか」を重視します。
4. 授業は、シラバス（授業計画）に沿って行われます。履修登録や受講の際に、次回の授業に備えて必ずシラバスの確認を行い、必要な予習·復習を行ってください。
5. 授業の日程は、休講や補講等の変更があることがあります。学内掲示版や学生ポータルサイトのお知らせを必ず確認してください。
6. 挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。率先して挨拶をしましょう。

授業

1. 授業は受講者全員が共有するものです。良好な授業環境を保つため、必要に応じて教員から厳しく注意されることもあります。以下の①～⑩の点には特に注意してください。（傷病や障がいなどの特別な対応（定期試験における別室受験や試験時間の延長、文字の拡大等）が必要な場合は、事前に担任やチューターなどの教員に直接相談するか、学生支援課または保健室にきちんと相談しておくようにしてください。）
   - ① 理由がない遅刻や早退をしない。
   - ② 座席が空いているのに、後部座席に固まらない。（受講態度が見て取れない。）
   - ③ あからさまに居眠りをしない。
   - ④ 私語をしない。
   - ⑤ 騒がない。
   - ⑥ 許可なく携帯電話などを使用しない。
   - ⑦ 飲食をしない。
   - ⑧ 帽子を被ったまま受講しない。
   - ⑨ 許可なく教室を出入りしない。
   - ⑩ その他、礼節に欠ける態度や発言、授業の妨げとなる行為や態度をとらないなど。

※個人の尊厳が傷つけられるような発言等によって、教職員やクラスメイト等周囲から心身を傷つけられ悩みを抱えるような場合は、学生相談室やハラスメント相談員に相談してください。また投書箱を利用することもできます。学校は個人の不利益にならないよう配慮し学修支援に尽力します。

06 成績評価について

全授業回数の2/3以上の受講がないと、成績評価の対象者となりません。正当な理由があって遅刻·早退·欠席する場合、教務課窓口で指示に従って手続きをしてください。

※短期大学部では、30分以上の遅刻や早退（途中退室含む）は欠席とみなされます。遅刻3回は1回欠席として取り扱われます。

各科目の成績評価の方法は、シラバスに記載されています。評価について、別途科目担当教員から留意事項等の説明があることもあります。成績評価は、該当する学修到達目標に対する学修（比率が示されています。）に対して、定期試験·小テスト·授業態度·発表·参加度·その他の基準を設け評価されます。

memo